

# 地球の木

♥地球上のすべての人たちと共に生きたい

## CONTENTS

- 緊急支援を考えよう……………1
- 日韓地球市民教育交流……………2~3
- 15周年アンケート結果報告……………2~3
- 焼畑の豊かさ……………4
- 新規プロジェクト調査報告……………4
- 家族農業に声援を送る……………5
- カンボジア里親の会……………5
- 平塚での貿易ゲーム……………6
- 貿易ゲームでわかったこと、考えたこと……………6
- 日比谷で“STAND UP”……………7
- ヨッコのグローバルアイ……………7
- 活動日誌……………7
- INFORMATION……………8

## 緊急支援を考えよう



理事 米林 大作

### 緊急の意味

緊急とは「琴の糸などを強く張ること」。こんな意味があるとは知りませんでした。もちろんここで取りあげる緊急は超イソギということです。みなさんはどの位の早さを緊急と考えますか。緊急支援を災害などが起きて「間髪を入れず」という意味でいうのであれば、地球の木で対応することは難しいと思います。なぜかという、被災地の支援を行っている信頼のおけるNGOを探すことや、募金で資金を集めることに時間がかかるからです。また現地が混乱しているような状況での緊急支援は、それ相応の支援団体にまかせたほうが良いということもあります。ですから地球の木が行う緊急支援は、正確にいうと「緊急から復興へと向かう移行期の生活基盤づくりを中心とした支援」になると思います。

### 地球の木の「緊急支援行動指針」

地球の木の緊急支援は「緊急支援行動指針」に基づき行われます。指針では、<対象地域は原則としてアジア。災害の種類は自然や人的災害。被害規模は原則として1週間以内に判明した犠牲者1,000人以上。支援方法は地球の木の支援パートナー、NGO、神奈川県在住の被災国出身者などが行う支援活動に協力。期間は原則として緊急事態発生後最長1年間まで。>などが決められています。また緊急支援のパートナーとなるNGOなどから、支援内容や現地のしっかりした情報が得られることも重要なチェックポイントになります。

### パキスタン地震緊急支援の経験から

私は今年の7月、パキスタン地震発生10ヶ月後の、落ち着きを取り戻した被災地を訪問しました。その地域にはパシ



米林さん制作のビデオ「被災地は今！」より

ユトゥーン系の人たちが住み、おいしい水、棚田に稲、畑にはトウモロコシ、そして家々は、地域で調達可能な石や土で造られていました。私のような開発過剰国の生活者から見ると、現地の人々にははるかに自立的な生活者であると思えました。そのような地域を見聞しながら、いくつかの緊急支援に対する留意点を感じました。

- ・その地に住む人々の生活をしっかり見据え、支援内容を決める。
- ・国内外から馳せ参じる支援団体は緊急とはいえ、その活動自体が地域社会を掻き乱す恐れがあることを意識する。
- ・限られた支援物資を公平に、また争いを起こすことなく、どこにどのように配るかを考える。
- ・物を配るだけでなく、現地の人々の協力や努力を伴う支援。
- ・短期間に有効な支援を行うためには、信頼のおける現地の協力者が必須。そして現地コーディネータの力量や人間性も問われる。
- ・男性中心社会の場合、女性の意見を引き出し、それを男性中心のコミュニティに理解させ、どう生かしていくかが重要。

しかしなんといっても有効な緊急支援を行うには、一定規模の資金が必要となります。募金は待っているだけでなく、なんとか掻き集める算段も必要と思いました。と私の頭の中は何かというと「マネー」が駆けめぐるわけですが、私たちには化石となりつつある「人間の絆」の大事さを、今回の訪問を通して改めて感じました。

# 日韓地球市民教育交流

## in YOKOHAMA

今年も、韓国から「地球村分かち合い運動」の「地球村市民学校」の元気なお母さんたちがやって来ました。金銀姫（キム ウンヒ）さんはじめ5名の方々です。

昨年からはまったこの日韓地球市民教育交流は、昨年6月に横浜で、10月にはソウルで、そして今回が3回目になります。

地球の木は、支援国の文化・風習、人びとの暮らしを学び、共に豊かに暮らせる世界をめざすための開発教育に力を入れています。が、「地球村市民学校」も同じように、国際協力への理解を促し、グローバルな視野での「平和な共生社会」を目指した活動を行っています。そのような両者が相互に訪問し合い、お互いの経験や手法を学び、情報の交換や交流を行うことは、互いの文化や慣習を理解するのに役立ち、開発教育に関しても視野を広げることができます。

今年度から地球の木は、より多くの人たちと交流の機会を持つと「地球市民交流」を活動のひとつの柱にしましたが、今回の交流は、まさに国内外のたくさんの人たちとのすてきな出会いの場となりました。



### ワークショップ

今回のテーマは「持続可能な開発」。参加者は、通訳の人たちも入れて25名ほど。午前10時に始まったワークショップは、昼食、お茶の時間をはさんで5時まで続けました。5つのグループに分かれて、開発する前と後の村の2枚の絵を見て話し合ったり、発表したり、「開発教育協会」理事（上條直美さん）のお話を聞いたり、「地球村市民学校」の人たちが韓国で行った市民への「開発に対する調査アンケート」の報告などもあり、時間が足りないほどでしたが、両国共通の環境・社会問題と「開発」の関係を一緒に学びながら、「持続可能な開発」をいろいろな方向から考えることができました。おしまいに、「公正な社会を創っていくために私たちは次の世代に何を残せるのか？」—これから考えて



いかなければならない大きな課題をもらいました。

そのワークショップの始まりや間には「アイスブレイキング」という緊張をほぐすための時間があり、皆でゲームをしたり、韓国の子どもの遊び歌で踊ったりし、皆笑顔で身体をほぐしました。

また、楽しみにしていた午後のティータイムには、上條さんの手作り和菓子と抹茶を「市民学校」の方たちに味わってもらいました。私たちは、韓国からの様々なお菓子（日本のおこしに似たものなど）や飲み物（甘酒のアルコール無しのようなもの）、お茶（山草の根から作った茶）などをおいしくいただきました。

6時から、場所を3階の食堂に移して懇親会。エスニック風や韓国風の料理をいただきながら、あちこちで楽しい

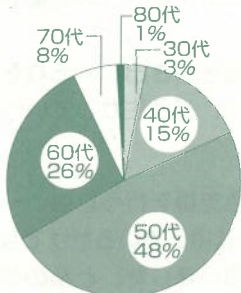
### スケジュール

- 11月9日(木) 来日、ワークショップ打ち合わせ  
歓迎夕食会
- 10日(金) 鎌倉女学院訪問、鎌倉散策、ホームビジット
- 11日(土) 地球市民交流ワークショップ、  
文化交流(桜木町のJICA横浜国際センターにて)
- 12日(日) 国際理解教育実践研究会参加、神奈川県国際  
交流協会訪問、あーすプラザ見学、帰国

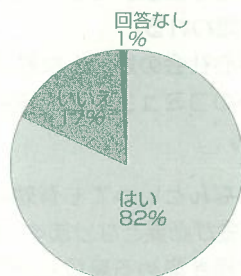
### 15周年会員アンケート

#### ●アンケート結果をグラフで見ると...

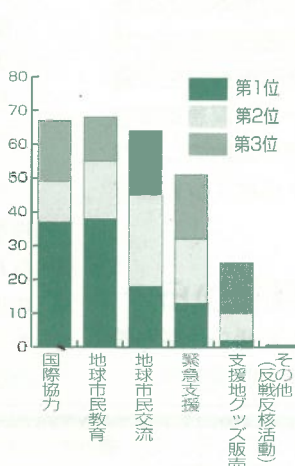
①あなたの年齢は？



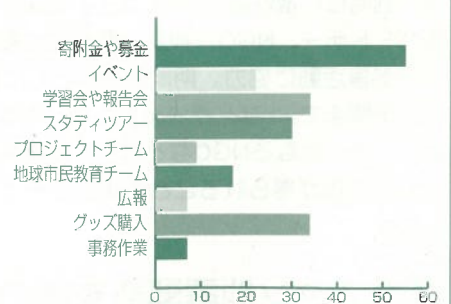
②あなたは生活クラブまたは福祉クラブの会員ですか？



③あなたは地球の木の事業として何が重要だと思えますか？



④あなたはどのような参加の仕方に関心がありますか？



⑤会報誌をよんでいますか？

全部読む	48%
興味のあるところだけ読む	49%
読まない	3%

⑥メールマガジンをご存知ですか？

はい	23%
いいえ	73%
無回答	3%

⑦情報メールマガジン AzianWindをご存知ですか？

はい	16%
いいえ	79%
無回答	5%

おしゃべりの輪が広がりました。そして続いての和室での文化交流では、着物とチマチヨゴリの着付けと詩吟、合気道、歌などの披露。笑い転げたり神妙な顔になったりと楽しく過ごそうち、終了予定時間の9時になっていました。

「色々な準備をして私たちを迎え、充実した楽しい交流をさせていただいたことに心から感謝いたします」とのキムさんの言葉と皆の拍手。「次回はソウルで、会いましょう」と名残を惜しんで解散しました。

外に出ると朝から降っていた雨もあがり、みなとみらいの美しい夜景が目の前に広がっています。朝からの長い1日、交流開催を担い、準備のため走り回った事務局のスタッフや理事たちの顔にほっとしたものが流れました。

## 大活躍の通訳さんたち

韓国から同行した通訳さんは19才の女子大生。その他に日本に留学中の韓国からの3名的女子学生、在日の女性2名とJVCの寺西さんがボランティアで大活躍。若い人たちの一生懸命な姿に何度も大きな拍手が送られました。その中のひとりに感想を聞くと、「今まで知らなかった環境や地球のことを聞いて、とても良い勉強になりました」と恥ずかしそうに答えてくれました。



**鎌倉**…地球の木が「国際理解教育」の出前講座を行っている鎌倉女学院を訪問したあと鎌倉を散策。お昼には秋満載の雲水料理を楽しむ。たくさんの人でにぎわう道を1時間ほど歩いて、お目当ての大仏に到着。「歩き疲れたけど、大仏は印象的でした」「大きな都市と違い自然や古い建物が残った町でとてもよかった」などの感想がありました。



**ホームビジット**…3名の会員の協力を得て、それぞれの家庭での心のこもったおもてなしで和気あいあいとした歓談を。(写真はなんぶランチの真矢さん宅で。お互いの暮らしや食べ物の話など大いに楽しみました)

**文化交流**…会員の協力で集まった20枚ほどの着物。それぞれ好きなものを選び、着付ける方は汗びっしょりの大奮闘で何とか6人の美しい着物姿の出来上がり。私たちはチマチヨゴリを次々に着せてもらってみんな大満足。



## 「地球村市民学校」の人たちの夢

「全国に支部を作る。男性会員をふやす。独立した事務所を確保する。これからのこの韓日交流で、もっとコミュニケーションできるように自分たちの言語能力を高める」等。この最後の言葉についての夢は、私たちも同じです。

## 参加者たちの声

「文化がわかってうれしい」「皆さんとの交流はとても刺激になるし、力にもなる」と韓国の方々。「同じようなものの考え方をすることがわかってうれしい」「近くて遠かった国が、とても近くて近い国になりました」「ぜったい次は韓国に行きます」と日本の参加者たち。

(広報チーム 沼田由美子)

## 15周年会員アンケート

### ●寄せられた「意見、要望」から…

マジカルバナナのワークショップには是非一度参加したい。夏休み平日にやっていただくと教員は参加しやすい。地球の木の情報は楽しみに読んでいます。一度はオフィスを訪問してみたい。できることだけ少しずつ長くやっていこうと思っている。会費納入で協力したい。同じような活動のグループともうまく協力し合って、ますます有意義な活動を続けて欲しい。私は75歳で積極的なことはできないが、気持ちだけはみなさんと一緒です。一人一ヶ月500円という会費を有意義に使っていただきたい。

会員アンケート「まっじょらむカレースパイス」プレゼントは厳正なる抽選の結果、以下の方が当選されました。

川上博美様、浜辺美英子様、土屋敏子様、春木由紀子様  
横山美智江様、日野由紀子様

### ●アンケートにご協力ありがとうございました

前回会報誌といっしょに配布したアンケートでは、124名(9月末現在会員数1,012名)の方からお答えをいただきました。

会員の年代は40代から70代が大半を占めており、長年にわたり応援して下さっている方の多さに改めて感謝いたします。一方、パソコンを利用する率が低いようで、メーリングリストや情報メールマガジンがまだまだ知られていないようです。これを機会にもっと多くの方にパソコンを開いていただくと嬉しいです。

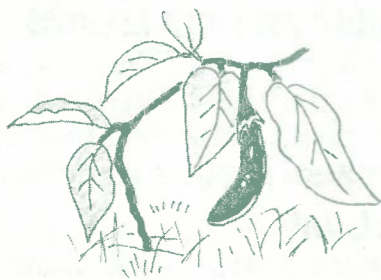
地球の木の事業の重要さとして、国際協力と地球市民教育が同じように1位に挙げられ、また地球市民交流の大切さも認められたことは、これからの私たちの活動への自信となりました。今後、皆さんの関心のある参加の仕方をよく検討して、多くの方が地球の木の活動に参加しやすいよう理事、事務局一同心を砕いて行きたいと思います。

(15周年記念事業担当理事 武安ますみ)

### 焼畑の豊かさ

10月は村人にとって最も嬉しい時期、米の収穫だ。ラオスの米は山や高地を焼いて作る「焼畑米」と「水田米」に大きく分けられる。焼畑の米は水田の米と異なり、香りが強く、粘り気がある。また、焼畑米は水田米よりも収穫が1ヶ月程早いので、米不足の救世主でもある。ちなみに、私も焼畑米は大好きで、この時期の村での食事は何よりの楽しみだ。

水田は稲以外の作物はまず植えないが、焼畑には平均で15種類近くの作物と一緒に植えられている。また面白いことに、それぞれの作物を植える順番も決められている。ガーヤンカム村を例に見てみると、まず村人が農地を焼いた後、一番最初に植えるのがスイカだ。次に植えるのがトウモロコシ、その次が稲。その後2種類の豆、芋、長豆をフェンス沿いに植え、次に畑の中の高い木に登らせる形でヘチマを植える。そして、次にかぼちゃと生姜、それから、唐辛子、ナスを植え、更にコットン、香草類の種を蒔き、最後にゴマをフェンス際に植えた。



大きな木など、畑の中にある資源も上手に使用し作物を育てている。一見バラバラのように見える混色の中にも、それぞれに意味があって面白い。例えば、毎月何かの収穫があるように、豆などは早く収穫できる品種と遅く収穫できる品種を混ぜて植えている。また畑の柵際にゴマを植えるのは、家畜よけのためだ。(牛はゴマの匂いを嫌う)ところが、ラオス政府は政策の中で焼畑の撲滅を掲げている。政府は焼畑を森林減少の原因と敵対視しているが、村人にとって焼畑とは米不足の救世主であり、多種多様な食物を供給する食料庫なのである。本来、焼畑はラオス語で「チュツハイ」という。しかし、現在村人の多くは政府の役人から目の敵にされているこの言葉は使用せず、代わりに「スワンカオ(米の畑)」という新しい言葉を用いている。自らの生活と焼畑文化を守っていかうとする村人の想いと知恵を守りながら、今後も活動を進めていきたい。

(JVC ラオス事務所 新井 綾香)

カムアン県 森林保全・自然農業支援

### 新規プロジェクト調査報告 地域の発展は教育から

大きな変化へのうねりが感じられる今回の訪問だった。今年5月、国王が全権を国民に委譲したことは記憶に新しいと思う。制憲議会選挙が公正かつ公平に実施されるように、マオイストと国軍双方の武器の管理についての交渉の合意が間近と伝えられていた。

ネパールの開発ファシリテーター、カマル・フヤルさんと、ネパールNGO・SAGUNの理事の案内で、マンガルタール村を訪れた。新規プロジェクトの候補として、高等学校を通じた地域改善の可能性を視察するためである。ネパールでは、地方に住んでいること、女性であること、カーストが低いことなど、様々な要因が格差をつくり出している。教育を通しての人々のエンパワメントがテーマとなる。

SAGUN(サグン)は、国際NGOで働いている人たちが結成された。真に人々の生活向上を願い、昔からある村の社会システムを尊重した開発を願う人たちが、それぞれの経験を共有し、無償で活動している。

カマル・フヤルさんは、SAGUNの理事兼実行委員であり、日本やアジア・アフリカでも多くのワークショップを行っている開発ファシリテーターである。機織りをしながら学校に通った貧しい子ども時代を経験し、「幸せを分かち合う」農村開発をモットーとしている。



中学生の教室。教育熱が高い

最近増設された高校2・3年課程の一期生となったラーマさんには話を聞いた。好きな科目はネパール語。6人の姉は高1まで終了し、終了試験に合格したが、村にその上の課程がなかったため、進学はできなかった。兄はカトマンドウの学校に通った。インタビューの後、制服とは不釣り合いの大きなかごを背負って家に帰っていった。



ラーマさん

新規プロジェクトチームメンバーを大募集！一緒にネパールの村について考えませんか？

教育支援プロジェクト



マンガルタール村の中高の校舎

村の人たちの持つ「いいところ」に目を向けて、自ら生活向上をはかる支援のあり方を、カマルさんやSAGUNの人たちから学んでいきたいと思う。貧しい家庭の子どもたちへの奨学金、図書室のサポート、スタディツアーなどの可能性をこれから検討していくことになる。

(理事長 丸谷士都子)



カマルさん(中央)とSAGUNの実行委員たち

マンガルタール村の学校は、カトマンドウから75キロ、車で約2~3時間。日本のODAにより道路ができ、アクセスが最近簡単になった。山を越え、谷に下った川沿いにある。アボナして訪れた学校は、小学校から高校3年まであり、たくさん生徒が学んでいる。山道を片道2時間かけて通っている生徒もいた。建物は立派であるが、1教室に100人以上の生徒が学んでいる。この地域には、タマン、ネワール、マガルなどの民族、そしてダリットと呼ばれるアウトカーストの人たちが住んでいる。今回の視察では、ダリットの生徒は見かけられなかった。多く住んでいるはずだが、学校には来ていないようだ。

この学校は、3つの郡、10の村の要となっている位置にあり、近隣の人たちの生活改善に役立つ役割を担う可能性が大いにある。生徒が村に住みながら質の高い教育を受けることで親の負担を少なくし、家の仕事や畑を手伝うことができる。カトマンドウの学校に送るとなると、費用はもちろんのこと、働き手がいなくなるということも意味している。

### ネパールYOUTH交流スタディツアー2007 ~ネパールの若者たちと未来を語ろう！~

ネパールでは今、激動の時代を乗り越え、新しい国づくりのさなかにあります。

社会の中での若者の役割って何だろう？日本とネパールの教育はどうなの？みんなで語り合う、excitingな旅となること間違いなし。

(通訳あり)

日程：2007年2月11日(日)~18日(日)

訪問地：カトマンドウ、ラリトプル、ナガルコット

内容：ユースクラブとの交流、セミナー、学校訪問、ホームステイ、市内観光

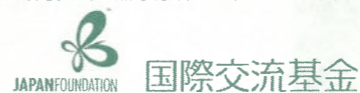
費用：178,000円(航空運賃、宿泊費、食費、現地交通費、現地プログラム、コーディネート費が含まれます。その他、ビザ代、現地空港税、保険料が必要です)

参加資格：地球の木会員(会員でない方は初年度会費3,000円でご入会いただけます)

旅行企画・実施：風の旅行社

現地プログラム企画：地球の木

国際交流基金の市民青少年交流助成を受けています。



事前学習会：2007年1月20日(土)と2月1日(木)

申込締切：12月10日(または定員10名に達し次第。お問合せください)



### 家族農業に声援を送る

「サトウキビ労働者から農民へ」をスローガンに支援をはじめたネグロス島の「レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト」が実施から3年になろうとしています。この間、現地を訪問し、いくつかの家族と親しく交流を続け、彼らのひたむきさ、熱心さに感動を覚えています。

手間のかかる野菜作りを途中で断念する人も出てきたのは事実ですが、私たちが想像していた以上に、家族農業が確立してきていることに、心からの声援を送っています。

私たちがホームステイさせていただいたカルロスさんのお宅では、ニガウリの棚を作って収穫量を上げ、栽培する野菜の種類も増やし、ひいては、奥さんのマリアフェさんが余った野菜を調理して「お惣菜として売る」というところまで実践しているということは、なんとも言えないうれしさです。最近ではサリサリストアーも開店したと聞きました。マリアフェさんに拍手です。

カルロスさん家族の成功がまわりの人たちに良い影響を与え、家族で野菜を作る人が増えてきている事実。「飢餓の島から希望の島へ」と変貌を遂げてほしい、と願わずにはいられません。

(ワイリピンチーム 石川美恵子)

レッツ・ゴー！ファミリープロジェクト

### 「カンボジア里親の会」23名のご支援で発足しました

会報27号で支援をお願いしたチャイルドケア・センターの3人の子ども達の里親に、19名の応募があり、世話人4名を加えた23名で発会することができました。応募は若い方から79歳の方まで様々でしたが、皆様に共通していることは、子ども達に対する温かいお気持ちでした。

10月14日(土)初めての懇親会を開き、3名が出席されました。世話人会スタッフ手作りのアジア風味のお菓子とお茶を頂きながら、子ども達のこれまでの様子、これからのこと等、話が弾み2時間があっという間に過ぎてしまいました。この次は子ども達に会いにカンボジアに行くツアーを企画するつもりです。

これからも引き続き、里親としての子ども達への支援をよろしく願いいたします。沢山の方の参加をお待ちしています。

(里親世話人会代表 佐々木慧子)



## ◆地球の木15周年記念イベント◆

### 地球市民はシンプルライフ! 暮らしから考える国際協力

日 時：2007年2月3日(土) 午後1時～5時  
 会 場：ZAIMスペース401 (関内駅南口徒歩5分)  
 内 容：・支援地モニター報告  
 ・大谷ゆみこさん講演「キッチン発! 平和と未来へのメッセージ」  
 ・記念パーティー (つぶつぶ食体験)  
 ・展示 (地球の木15年の歩み・「あなたにとって幸せとは何ですか」一言インタビュー)  
 参加費：2,000円 (チケット制)  
 詳しくは同封のチラシをご覧ください。会員同士が出会い、交流し、思いを共有し、新たな歩みの場となりますように。



大谷ゆみこさん

ぴーすあーすな暮らしを考える「いるふあ」代表。作物多様化、在来種子保存に取り組み、飢餓のない世界を目指す「国際雑穀フォーラム」設立者。  
 今から21年前、モノが溢れるけれどちっとも人間が幸せになっていない消費社会に疑問を感じ、「みんながホントに心豊かになれる暮らし方って何だろう?」と真剣に探し始めました。そして玄米や雑穀との出会いから、「食」と暮らしを、もっと自然や大地とつながるものへと変えることで、今を大切に心豊かに暮らせることを知ったのです。

### 支援地訪問モニターが決まりました

モニター選考委員会において、会員歴、志望理由を選考基準とし、検討の結果、応募して下さった3名の方それぞれ甲乙つけがたく、2名の予算を3等分し、3名の方全員にモニターとして、支援地を見てきていただくことを決定しました。  
 末吉 悦子様 (ラオス・会員歴13年目・西湘)  
 小林喜美子様 (ラオス・会員歴15年目・なんび)  
 斎 藤 聖様 (フィリピン・会員歴6年目・なんび)

### 寄付・募金ありがとうございました

(2006年4月1日～11月10日現在)

- 総額：4,088,025円
- ・ジャワ島地震被災者救援：2,810,189円
- ・レイテ島地滑り被災者救援：53,362円
- ・パキスタン地震被災者救援：7,000円
- ・ネパール：179,754円 ・ラオス：2,000円
- ・地球市民教育：5,000円 ・無指定：1,030,720円

### ●寄付・募金者リスト (敬称略)

生活クラブ生	佐 藤 葉	星 恵 美 子
協 神 奈 川	庄 司 富 士 子	保 住 正 道
阿 部 忍	神 馬 純 江	堀 川 和 美
飯 田 信 子	杉 本 恵 美 子	本 田 ま り 子
江 草 洋 子	高 橋 和 子	丸 谷 士 都 子
小 野 沢 春 子	田 中 い く 子	安 田 恵 子
尾 藤 尚 美	対 馬 芳 子	山 本 通 子
金 子 勉	筒 井 由 紀 子	鎗 田 和 子
木 内 京 子	中 野 真 理 子	横 浜 イ ン タ ー ナ
菊 地 栄 子	乳 井 暁 絵 ・ 茉莉 恵	シ ョ ナ ル ス ク ー ル
木 村 卓 美 ・ 亜 里 沙	乳 井 京 子	吉 田 藍 子
ク ナ ウ プ 由 美 子	橋 本 佐 知 子	地 球 の 木 カ フ ェ
ケ ネ ス ・ ク ボ	原 田 和 子	の お 客 様
小 島 梅 子	平 田 千 鶴 子	地 球 の 木 ラ イ フ
小 林 武 津 子	フ ァ イ バ ー リ	参 加 者
斎 藤 和 子	サイ ク ル 泉 谷	STANDUP イ
坂 下 ま さ み	藤 本 直 美	ベ ン ト 参 加 者

\*掲載をご希望されない方はお手数ですが事務局までご連絡下さい。  
 \*カンボジア里親型支援については3月号でご報告します。

### プロジェクト支援 年末募金キャンペーンのお願い

今年の年末募金は、「ネパール・デブラニ募金」「ラオス・村びと支援募金」です。皆様のご支援をお願いいたします。

### 2007地球の木カレンダー好評販売中! 「アジア育ち」 写真：菅 洋志

ご自宅用はもちろん、年末年始の贈り物にも最適です。プレゼントカードをお付けして先方にお送りします。お電話・FAX・メールなどで事務局までお申込みください。詳細は地球の木ホームページで。  
 1部1,500円。送料310円(遠方は別途)

### 地球の木カフェ「さよなら2006」

今年最後のオープンオフィス、地球の木カフェ。ネパールから、かわいいフェルトのバッグがたくさん入荷しました。ぜひ見に来てください。

日 時：12月20日(水) 11:00～18:00  
 場 所：地球の木関内事務所

### 地球の木ラオススタディツアー報告会 ラオスの村人は暖かく迎えてくれました

日 時：2007年1月21日(日) 13:30～15:30  
 場 所：横浜市市民活動支援センター  
 クリーンセンター4F 研修室2  
 (桜木町駅より徒歩7分)

### 地球の木サロンへご参加ください

1月～3月 単発講座「旅行英会話」がはじまります。週一回90分のレッスンは「英会話上達、自主トレーニングの方法教えます」がモットーです。「ハングルに親しむ」も空席があります。皆様の応募をお待ちしております。